

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立光陽支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援学校における児童生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「光陽 GO GO プロジェクト ～未来の扉を自分で開こう～」

2. 事業目標及び本年度の取組み

<p style="text-align: center;">学校経営計画の 中期的目標</p>	<p>2. 【実践】質の高い授業実践の実現（授業実践力の向上） ～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～</p> <p>(3) 自立活動における専門性の向上を図るための取組みを行う。（光陽 GoGo プロジェクトの取組み含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部人材等を積極的に活用し、初任者や経験年数の少ない教員への指導も含めた「自立活動の専門性の向上」のための取組みや検証を行う。 ・ スパイダー・移動支援機器・スヌーズレンや GIGA スクール構想に伴う 1人1台のタブレット等 ICT 機器を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。 <p>※上記（3）の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「自立活動を中心とした実践」における学校教育自己診断関連質問項目を1年め（R3）・2年め（R4）・3年め（R5）ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和3年度 65%以上（達成済）、令和4年度 70%以上、令和5年度 75%以上とする。〈R3 教職員 90% 保護者 74%〉</p> <p>4. 【発信】多様性社会の推進と実現（発信力の向上） ～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～</p> <p>(3) 児童生徒・教職員が光陽支援学校の取組み・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」（プレゼンテーションスキルや言葉の精選等）を強化し、校外で発表の機会を作り、発信する。 ・ ホームページ等の充実を図り、何度もアクセスしたくなる内容・更新ペースを検討し、学校の「見える化」を図る。 <p>※上記（3）の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「SDGs 拠点校としての実践・発信」における学校教育自己診断関連質問項目を1年め（R3）・2年め（R4）・3年め（R5）ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和3年度 65%以上（達成済）、令和4年度 70%以上、令和5年度 75%以上とする。〈R3 教職員 94% 保護者 89%〉</p>
<p style="text-align: center;">事業目標</p>	<p>「光陽 GO GO プロジェクト ～未来の扉を自分で開こう～」</p> <p>① 自力移動が難しい児童生徒が多い本校において、「移動支援機器（ベビーロコ）」や「スパイダーシステム」を活用し、「自分で動く」事の楽しさを感じ、「自分のできること」を広げて、運動面・認知面・情緒面の発達を促し、コミュニケーション能力を向上させ、自己表現力を育む。</p> <p>また、スヌーズレンルームを活用し筋緊張を緩めることで移動支援機器・スパイダーの効果を最大限に引き出す。</p>

	<p>② 「SDGs」の取組みの一環として、「poRiff」（ポリフ＝ポリ袋を活用したリサイクル作品）や「七宝焼きでのSDGs作品」等を作り、移動支援機器を活用した交流活動での配付や地域での販売活動を通して、自立と社会参加に向けた充実を図る。 地域小中学校や高等学校・地域住民との交流を通して相互に高め合い、多様性社会の推進に使命を果たし、児童生徒・保護者の満足度向上に繋げる。</p>
<p>整備した 設備・物品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベビーロコ3台 ・ スパイダー1台 ・ スヌーズレンルーム物品 ・ 電気炉2台等、七宝焼物品、陶芸物品
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主担： 首席・自立活動部長・支援相談部長・支援教育コーディネーター・ICT教育部長 実施者： 全教職員</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月28日、29日に「光陽GoGoプロジェクト」の取組みを広く発信するため「光陽GoGoフェスティバル」を開催した。プロジェクトで取り組んでいる内容を体験型として全10ブース用意し、在校生・保護者・卒業生・校区内の小中学校関係者を対象に計111名の方に参加いただいた。 ・ 2年連続でユニクロの「届けよう服のチカラ」プロジェクトに参加し、国連を通じて海外の難民へ服を届けることができた。また、近隣の学校へもSDGsの拠点校として取組みを発信し、共同で服を集め合計966枚もの服を送付することができた。その評価が認められ、「こころの再生」府民運動SDGs部門の表彰校に選出された。 ・ 交流学习では、SDGsプレーヤーとして交流校へ「手作り植木鉢の贈呈」や「共同での七宝焼き作り」を実践として行うことができた。 ・ スパイダー（重力免荷システム）の移動式を作成し、自立活動以外の授業でも活用を行い、児童生徒の可能性の幅を広げることができた。また、自立活動部による「スパイダー研修会」を行い、年3回の「スパイダー実践報告会」で活用事例を教員間で共有することができ、令和5年2月に大阪肢体不自由自立活動研究会で発表を行った。 ・ 「光陽GoGoプロジェクト」の活動を「光陽GoGo通信」としてNo.8～No.11まで発行し、保護者へ発信することができた。
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校教育自己診断アンケートにおいて自立活動に関する肯定的評価（保護者・教職員）が70%を超える。 ② 学校教育自己診断アンケートにおいて交流及び共同学習に関する肯定的評価（保護者）が85%を超える。 ③ 「SDGs」の取組みを含めた発信力について、学校間交流校および公開研修参加者のアンケートで肯定的評価70%以上。
<p>自己評価</p>	<p>【自己診断アンケート】 ※今年度から、より具体的に「光陽GoGoプロジェクト」（SDGs）の取組みに関する項目に変更</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自立活動に関して導入した物品の活用及び実践の発信についてのアンケート 肯定的評価 保護者81%・教職員96%……………(◎) ② SDGsプレーヤー、SDGs拠点校としての取り組みについてのアンケート 肯定的評価 保護者84%・教職員98%……………(○) <p>【光陽GoGoフェスティバルの取り組み】 [参加者] 51組111名 ※49%が校区内の学校関係者</p> <ol style="list-style-type: none"> ③ アンケート結果 ◇光陽GoGoフェスティバルに参加した満足度をお答えください。 とても満足…92% やや満足…8% ◇また光陽GoGoフェスティバルに参加したいと思いますか。

	<p>参加したい…96% わからない…4%</p> <p>※記述式のアンケート内容も肯定的な内容が多く、光陽 GoGo プロジェクトの取組みを発信するとともに、本校のセンター的機能を果たすことができたと考える。…… (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「光陽 GoGo プロジェクト」の一環として、「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」に参加し、PTA や交流校とも協働することで 966 枚の服を海外へ送ることができた。2 年間の取組が評価され、「こころの再生」府民運動 SDGs 部門で表彰校に選出された。
<p>次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「第 2 回光陽 GoGo フェスティバル」を開催し、対象を地域住民、事業所まで拡大し、運営を全校での取組みとして行う。 ・児童生徒の「自立活動発表会」を各学部で実施し、活動内容の共有を行う。また、「活動事例報告会」に外部講師を招聘し、評価及び指導助言をいただき、実践を改善する。 ・光陽 GoGo プロジェクトで導入した機器を活用し、「公開授業」を行い、他校教職員とも情報交換を行い、自校の活用力を高める。 ・「安心メール」を活用して、取組み内容を「光陽 GOGO 通信」として継続配信し、保護者へ周知を行う。 ・地域の小・中学校及び支援学校へ、ベビーロコの体験「出前授業」を行う。 ・ユニクロの「”届けよう服のチカラ”プロジェクト」に継続して参加し、SDGs 拠点校として地域の学校と共同で取組みを行う。 ・交流学习等で本校の児童生徒が作成し、贈呈した植木鉢等の活用を相手校と共同で行う。また、互いに SDGs の取組み内容を相互に発表し学びを深める。